

国立民族学博物館 研究フォーラム in 東京

「チベットの基層文化を探る」

Tracing the Cultural Substratum of Tibet



2009年4月29日(水・祝)18:30~20:30[開場 18:00]

会場：学術総合センター 一橋記念講堂 [東京都千代田区一ツ橋2-1-2]

定員：500名 参加費：無料 (要申込・先着順)

講演内容

【プロローグ】チベット宗教におけるボン教の位置 / 長野 泰彦 (国立民族学博物館 民族文化研究部教授)

【基調講演】ボン教教義の特色 / ツルティム・テンジン (国立民族学博物館客員准教授 ティテン・ノルブツェ寺瞑学学長)

【パネルトーク】ボン教とは何か?

パネリスト：立川武蔵 / 森 雅秀 / ツルティム・テンジン / 津曲真一
総合司会：長野 泰彦

主催：国立民族学博物館、財団法人千里文化財団

「チベットの基層文化を探る」

Tracing the Cultural Substratum of Tibet

チベット。このことばから人びとは、「荒涼たる雪原」と「チベット仏教」を思い浮かべる。しかし、チベットの主たる生業が農業であること、仏教伝来以前からポン教という精神文化があったことを多く日本人は知らないのではないだろうか。チベット宗教文化の基盤を形づくってきたポン教の実態について探る。

プログラム	プロローグ チベット宗教におけるポン教の位置 / 長野 泰彦 (国立民族学博物館 民族文化研究部教授)
	基調講演 ポン教教義の特色 / ツルティム・テンジン (国立民族学博物館客員准教授 ティテン・ノルブツェ寺瞑想学堂長)
	パネルトーク ポン教とは何か?
	パネリスト 立川 武蔵 (愛知学院大学教授 国立民族学博物館名誉教授) 「チベット宗教の普遍性」 森 雅秀 (金沢大学教授) 「図像学の立場から」 ツルティム・テンジン 「行の立場から」 津曲 真一 (四天王寺大学講師) 「ゾクチェン哲学と禅」
	総司会 長野 泰彦

日時：4月29日(水・祝) 18:30~20:30[開場 18:00]

会場：学術総合センター 一橋記念講堂



ツルティム・テンジン 国立民族学博物館客員准教授 ティテン・ノルブツェ寺瞑想学堂長

ツルティム・テンジン師は1967年12月生まれ、現在のネパール、カトマンズ盆地の北西部にあるティテン・ノルブツェ寺瞑想学堂(ドッパタ)の堂長(ケンボ)を務めている。19歳で出家し、論理学や中観を学んだ後、ゾクチェン教学研究に転じ、1994年ティテン・ノルブツェ寺でゲシェ(博士)位を取得。2003年オックスフォード大学で儀礼用具トルマに関する共同研究に参画。

ティテン・ノルブツェ寺は、ボン教の高僧で、ロンドン大学でスネルグロウ教授と研究を行ってきたテンジン・ナムタク師が1987年に設立した新しい学問寺で、現在約150名の若い僧侶達がボン教の教育階梯に則り、修行を続けている。

参加申込方法

「4月29日(東京)参加希望」と明記の上、①郵便番号、②住所、③氏名、④連絡先電話番号を記載し、往復ハガキか電子メールにてお申し込みください。2名様以上でお申し込みの場合は、それぞれの方の①~④を必ず明記してください。応募者多数の場合はご参加いただけない場合もあります。

※参加申込をいただいた方の個人情報は、参加証の発送にご使用いたします。

参加申込・お問い合わせ先

財団法人千里文化財団 事業部
〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1-1
e-mail bon@senri-f.or.jp
http://www.senri-f.or.jp/

注意事項

- 会場には必ず参加証をご持参ください。参加証はお一人様一枚となっております。
- 参加証がない方は会場にははいれませんのでご注意ください。



- 会場案内：
- 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町駅」徒歩5分
 - 東京メトロ東西線「竹橋駅」徒歩4分

国立民族学博物館

企画展「チベット ポン教の神がみ」

会期：4月23日[木] — 7月21日[火]

会場：国立民族学博物館(大阪)

開館時間：午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日：毎週水曜日[ただし4月29日(水)・5月6日(水)は開館、4月30日(木)・5月7日(木)は休館]

みんなく
携帯サイト



みんなくウェブサイト

<http://www.minpaku.ac.jp/>